

■（２）「駅売店の学習発表会！」

通勤で使う東京郊外の私鉄駅で、ホーム売店に並ぶ新聞を数えてみた。左側はモノクロ中心の一般紙（全国紙・ブロック紙・地方紙）で、右側には青や黄色、緑など多彩なスポーツ紙。経済やサッカー、競馬の専門紙や英字新聞もある。その数は20を超えた。

陳列棚から見えるのは各新聞の題字と1面トップ。題字は「朝日新聞」など銘柄を示し、1面トップは各新聞が最重要と判断した記事だ。言い換えれば、各新聞が「〇〇新聞です。今日の売りはこれ！」と競い合っているコンテスト会場。さながら学習発表会だ。最近は多くのコンビニでも「ミニ発表会」が企画されている。

そこで「審査員」になってみれば気づくはずだ。「新聞はどれも同じ」ではないということ。21日の朝刊も「検事、押収資料改ざんか」（朝日新聞）、「中国、青年交流も中止」（読売新聞）、「株式売買 日欧で低迷」（日本経済新聞）などと1面トップの見出しはさまざま。子どもと同じで、各新聞が個性豊かに自己主張している。

この日の審査結果は、誰が見ても、衝撃的な「特ダネ」を載せた朝日新聞が最優秀だろう。その背景を簡単に表現すれば、「新聞記者も欲しい一等賞！」。次回のテーマです。（山）